

# 学校関係者評価（平成31年度）報告書

三郷幼稚園施設長 殿

学校法人津嶋学園  
認定こども園三郷幼稚園  
学校関係者評価委員会

## 1. 評価を行うにあたり注意した点（評価基準）

平成29年4月より認定こども園に移行し、学園運営も順調に推移しているところではあるが、今般、教育保育要領や保育指針の見直しが行われ、幼小接続や幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿なども明示されたことから、特に今年度（平成31年度）は「子どもの主体性」に主眼を置き、「主体的対話的で深い学び」を意識しながらこれまで行ってきたカリキュラムや保育、教育内容の見直しを行うこととした。

また、そうした中で保育者自身が質の高い保育の実践を行うことができたかどうかを評価の対象とし、13項目にわたる評価課題を設定した。

学期毎に実施している自己評価はもとより、保護者アンケートを実施し、その内容を集約するとともに、教職員全体で課題を共有しながら質の高い保育、教育につなげられるよう努めている。

この度は、2019年度の三郷幼稚園における学校関係者評価（評価項目・評価内容とその結果、総合評価）の結果を以下に報告いたします。

## 2. 評価の基準（評価結果）

1	取り組めていない・未実施	2	取り組めてはいるが、不十分な点（課題）が認められる	3	取り組んでいる
4	積極的に取り組みが進められている	5	目標達成・十分できた		

### 3. 項目別評価

項目	評価項目	評価内容	評価結果	総合評価
1	教育保育目標・理念	園の教育方針を理解し、園児のために意欲的に教育・保育活動に取り組めたかどうか	4	教育・保育目標を全員が理解しながら、日々の保育や活動に取り組めるよう会議・園内研修を積極的に実施された。
2	研究・研修の実施 保育教諭資質の向上	研修や研究を通し、保育者が自己研鑽に努め、保育内容の向上に努めたかどうか	4	キャリアパス研修を含め、園内研修・守口市主催の幼保合同研修会、大阪府や大阪府私立幼稚園連盟主催の研修等をそれぞれ保育教諭が計画的に受講され、資質の向上に努められた。 今後は、代替保育教諭の確保が一つの課題と考えるが、引き続き瀬積極的な受講に努められ、更なる資質の向上並びに保育・教育の質の向上につなげられたい。
3	教職員間の連携・組織力	教育・保育課題について園全体、また、学年で話し合いを行い連携を図れたかどうか	4	こども園制度として、日々の開所が11時間30分と長時間に亘ることから保育を担う職員も常勤職員、非常勤職員、パート職員、子育て支援員やアルバイト職員など多種多様である。職種、職責により勤務時間も異なることから全員揃って会議や話し合いの機会を持つことが困難なことから、グループ間での連携や会議、研修を行いながら連携に努められている。 今後は、ノーコンタクトタイムの実施についても検討され、より教職員間での連携強化を図られたい。
4	安全・安心・環境整備	施設・設備の安全確保のため定期点検を行ったかどうか。また、保育室、園舎、園庭、園舎の清掃・整理整頓など環境整備に努められたかどうか	5	戸外、園庭については毎日の巡回点検（当番制）、目視により遊具や園庭の安全に配慮を行っている。 また、保育室内や園内については、マニュアル（チェックシート）にてそれぞれ保育者が毎月確認を行い、施設長に提出、安全の確保に努められている。また、今年度はロケットランチャーや催涙スプレーを保育室に配備されるなど、防犯対策についても強化された。

5	保育内容の充実・改善・工夫	<p>教育保育要領の改訂を受け、こどもの主体性を引き出しながら、対話的で応答的な学びができているかどうか</p> <p>保育内容の見直しや改善を行ったかどうか</p>	4	<p>幼小連携や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識しながら、学年ごとに会議、研修の機会を設け、乳幼児の発達と現状に適った保育が行えるようそれぞれの学年において保育・教育内容の見直しを実施された。また、保護者への事前説明をクラス担任が直接行うなど共通理解に努められた。今後は、途中経過も含め、さらに実情や園児の発達と心情に適った保育・教育内容となるよう見直しを図りたい。</p>
6	基本的な生活習慣	<p>挨拶をする、衣服の着脱、排せつ、トイレのスリッパを並べるといった決まりや日常における基本的な生活習慣が身につけられるよう、園、学年、学級で取り組めたかどうか</p>	4	<p>クラス担任には進んで挨拶が出来ても、他の教職員には挨拶ができないといった状況が見て取れたことから、挨拶カードを取り入れるなど工夫しながら、挨拶のきっかけづくりに努められた。</p> <p>トイレのスリッパの整頓については、できる子と気かけない子の差が激しく全体としては達成の域に達していない。引き続き達成に向け、努力されたい。年々、おしめ着用率が高くなってきていることから、家庭との連携を図りながら、園児一人ひとりの自主自立に向け、トイレトレーニングに努められたい。</p>
7	保護者、家庭との連携 保護者アンケート	<p>園児が安心して自分らしさを発揮したり、保護者が気軽に相談したりできるような信頼関係が構築できているかどうか。</p> <p>保護者ニーズの把握や保護者との連携ができていたかどうか。</p>	4	<p>定期的実施される育友会委員会（各クラスの保護者代表）にて情報発信や保護者からの意見聴取を行い、連携に努められた。</p> <p>また、アンケートを定期的実施するなど保護者全体からの評価や意見の聴取にも努められた。加えて、個人懇談や合同懇談会の機会を設けるなど双方向における情報発信や意見聴取を行った、認定こども園となり、就労率も高まっていることから、合同懇談会の在り方や参加率を高めるための方途を検討されたい。</p>
8	情報公開・情報の提供	<p>保護者懇談会や保育参観、アンケートの実施、ホームページや園便りなどを通して、園児の様子や子育て支援に関する情報を積極的に発信、公開できたかどうか</p>	5	<p>園内の活動においては、ホームページを活用し、積極的に画像や内容の発信を行ってきた。また、子育て支援に関する内容や緊急連絡など重要な情報や連絡についても、独自のシステム（パステル）を利用し配信に努められた。今後はECEQ方式による公開保育を推進されるなど、保育の内容や実情についての公開にも期待する。</p>

9	地域・社会との関わり	地域の人や身近な人との交流を積極的に図ることができたかどうか	3	<p>地域主催の音楽会や守口市、守口警察主催の催しにも積極的に参加し、地域住民や市民の方とも交流を図った。</p> <p>一方、その回数や頻度、実施日によっては、保護者や教職員、園児の負担にもつながる場合があることから、年間を通して計画的に実施されたい。また、他方、園児と生徒、地域住民との連携は図れているものの、教員間における交流や連携機会については今後の課題として残るため、鋭意努力されたい。</p>
10	食育計画・食育の推進	園児が食を通して楽しみながら、規則正しい食生活、食習慣を身につけられたかどうか	3	<p>年間食育計画に則り、様々な活動に取り組まれている。(果樹や野菜の栽培、収穫、調理、食、野菜の皮むき、京野菜の使用など) 一方、学年によりその取り組みが難しい部分も見受けられるため、より発達に適った活動や知識の習得につながるよう努められたい。</p> <p>お箸の持ち方については、年長児の巡回指導においても指摘があり、個々の習得につながるようその指導方法や内容への工夫に期待する。</p>
11	幼小連携(園児・職員)	小学校等の接続を意識しながら連携を図れたかどうか。	4	<p>これまでも小学校との交流事業をはじめ、施設長間での連携や情報共有については連携推進協議会を通して積極的に行われきた。</p> <p>今後は、幼小接続期プログラムが策定されたことから、その内容についても相互(幼稚園・小学校教諭)がしっかりと理解、把握し、交流の機会を持つことに期待する。</p>
12	子育て支援	積極的に子育て支援事業を展開できたかどうか。	4	<p>カウンセリング事業や教育相談事業を積極的に展開し、その件数も年々増加傾向にあるなど、子育てに悩む保護者に対する支援は充実が図られている。一方、地域住民、家庭内で保育する世帯に対する子育て支援については、まだ十分行き届いているとは言い難いことから、施設開放の実施や支援メニューの周知、PR方法については検討を図られたい。</p>

13	特別支援教育	<p>特別支援教育の理解を深め、該当児に個別の配慮をしながら、発達の支援を行えたかどうか。</p> <p>医療機関、臨床心理士との密な連携を図ることができたかどうか</p> <p>家庭との連携を図り、保護者との共通理解を図ることができたかどうか</p>	<p>5</p> <p>昨年度に引き続き、当園の臨床心理士2名との連携を図り、園内研修（カンファレンス）を行いながら、個々の保育技術の向上に努めると共に、「個別の教育支援計画」及び「個別支援計画」を作成し、子どもの実情やつまずきに応じた支援を行うことができた。</p> <p>また、守口市の「5歳児健康診査（巡回支援事業）」の際もカンファレンスの時間をもち、理学療法士からの助言をいただき、今後の支援方法についても保護者同意のもと、進められている。</p> <p>今後は更に、つまずきをや困り感を持つ子ども達に寄り添いながら、保護者との共通理解を図りながら更に充実した丁寧な保育が進められるよう取り組まされたい。</p>
----	--------	--	--

#### 4. 保護者アンケートからの評価・まとめ

年間を通して参観毎に実施しているアンケート（テーマの設定・内容の理解度・保育の進め方・園児への目配り、配慮・保育準備・保護者としてのテーマ、内容の理解）を分析、集約した結果、各項目においてA評価（達成できている）・B評価（概ね達成）の合計が95%以上と、保護者からも概ね高い評価を受けていることが窺える。今後は、少数意見やその内容についても斟酌し、引き続き、質の高い保育、教育の実践に努められたい。

また、今回評価が得られた内容や目標が達成できた点などについては、保護者や地域にも積極的に発信、伝達し、更に皆から信頼される園づくりに努められたい。

#### 5. 今後の課題について・全体評価・まとめ（令和2年度に向けて）

幼稚園から幼保連携型「認定こども園」に移行し3年が経過した。乳児保育についても一人ひとりの発達と心情に合った活動、内容となるよう毎年見直しを行い、その充実に努めると同時に、午睡中の乳児見守りシステム（ルクミー）などについても早期に導入を決定するなどハード面、保育環境においても充実を図られてきたことから、入園希望者も多く保護者から安定した評価、信頼が得られていることが窺える。今後も更に保護者ニーズやその期待に応えられるよう家庭との連携を図りながら、更なる乳児保育の充実に努められたい。

一方、保育、教育の現場では、国の制度でもある保育の無償化により保育の長時間化が進むと同時に、働き方改革についても求められていることから、今後は、長年培ってきた幼児教育を基礎としながら、更なる保育の質の向上に努めると共に「やりがいのある職場」づくりに教職員一丸となって取り組まされたい。

また、そのためには、豊かで十分な人材、保育教諭の確保が大前提となってくることから、行政とも連携を密に図りながら進められたい。保育・教育内容については、現在見直しを行っているように子ども達の「主体性」に主眼を置き、園が進めようとされている一人ひとりの発達や心情に合った保育、対話的で深い学びにつながる保育の実践にこれからも努められたい。